

ニッポンコムジェスト・エマージング マーケッツ・ファンドSA (適格機関投資家限定)

ありがとう投信
Ariгато Asset Management Inc

※弊社が組入れているファンドの中で、マーケットコメント等の提供があるものについて、直近の内容を掲載しております。

運用: 日本コムジェスト株式会社 <http://www.comgest.co.jp/>

基準日: 2010年2月26日

マザーファンド株式組入上位5銘柄

	銘柄	国	MSCI業種分類	比率
1	MTN GROUP LTD	南アフリカ	電気通信サービス	5.2%
2	JBS SA	ブラジル	生活必需品	4.1%
3	TAIWAN SEMICONDUCTOR-ADR	台湾	情報技術	3.9%
4	GOLD FIELDS LTD	南アフリカ	素材	3.4%
5	CHINA MOBILE LTD	中国	電気通信サービス	3.3%

※ 比率は、マザーファンドにおける純資産総額に占める割合です。

<運用概況>

2010年2月のエマージング諸国の株式市場はドルベースの株価指数で見ると若干反発しましたが、実際は活気のないものとなりました。この多くは、中国の春節(旧正月)の影響でアジアの株式相場が閑散としたものになった結果によります。しかし現在の市場では、2つの矛盾する要因で依然として懸念が残っています。一つは、中国人民銀行(中央銀行)が預金準備率を2度引き上げたことや、米国の連邦準備制度理事会が公定歩合を0.5%から0.75%への引き上げを決定したことにより、2009年に強気相場の原因となった金融緩和と政策の終了に対する懸念が生まれたことです。二つ目に、雇用回復のペースは緩やかであり、さらに消費者の支出も控えられたままであり、工業部門の多くで活気のない状態であることから、中央銀行や政府に支えられていた景気回復が疑問視され始めました。これに加えて、ヨーロッパ諸国の一部の国の財政赤字によりドルがユーロに対して強くなっていることから、投機的なファンドがドル建ての借入金を返済するために、エマージング市場や金のキャリートレードから資金を引き上げているようです。

このような不透明かつ複雑な環境下で、コムジェストは3つの信念を持っています。一つは、世界的にインフレ懸念が強まってきた場合も、中央銀行は景気回復への政策を打ち切ることは、たとえ望ましい政策であったとしても、できないと考えています。連邦住宅金融抵当金庫(Freddie Mac)や連邦住宅抵当公庫(Fanny Mae)、AIG(American International Group)の第4四半期の業績は、金融システムの脆弱性を示しており、低水準の政策金利や緩和的な金融政策を終了することはできないと考えます。二つ目は、エマージング諸国、特にアジア諸国において、内需や中国需要によって活気づいており、2009年第4四半期に景気後退から抜け出したと思われます。2010年の力強い経済成長や企業の高い利益成長が期待できます。三つ目は、2009年の株価の急激なリバウンドにもかかわらず、株価の水準は適度な評価水準を維持しています。それにより、現在の活気のないエマージング諸国の株式市場、とりわけ中でも影響を最も大きく受けた市場や銘柄について、投資の機会が大きいと考えています。

ファンドが組み入れている銘柄において、Bharti Airtel(インド)の株価は、インド国内における電話料金の価格競争の激化と、アフリカのZain社の買収価格がいくぶん高かったことから、下落しました。しかしながら同社は価格競争に勝利し、またZain社の利益率を改善することができると我々は考えて、買い増しを行いました。

以上